

地方独立行政法人

山梨県立中央病院通院加療がんセンター開所を記念して



(特) 地方独立行政法人山梨県立病院機構

理事長 小俣 政男

がん患者さんは今後、未曾有の増加をすると推定されています。

通院加療がんセンター (ATCC-Ambulatory Therapeutic Cancer Center)は、山梨県としては初めてのがんに特化した診療形態であります。

横内県知事を始め、県当局等のご支援により、今般、開設する運びとなりました。

今後、がん診療は、通常の日常生活を行いながら、通院型の治療を行う形態が主流となると考えられます。更に、最近の分子標的薬の効果は目を見張る物があり、その多くは飲み薬や外来注射で施行され、従来の長期入院を要する形態とは異なって来ております。

更に、高齢化により患者さんは、がんのみならず、多くの疾病を有して来院されます。

従って、独立単体で無く、総合医療センターの中のがんに特化する部門こそが未来型のがん治療の方向性であり、山梨県のがん医療の発展に貢献すると信じております。

ご援助を頂いた多くの方々に感謝しつつ、開設の言葉と致したいと存じます。

通院加療がんセンター開所をマイルストーンとして



山梨県立中央病院

院長 山下 晴夫

本年4月に改定されました「がん対策推進計画」には、新たな項目として「がん患者さんへの社会的支援」が盛り込まれています。

「都道府県がん診療連携拠点病院」である当院では、平成19年度から6B病棟に外来化学療法室としてベッドを確保し、外来に於ける制ガン剤治療を行ってきました。

今回さらに9A病棟を改変し制ガン剤治療拠点とすることにより、この面で大きく1歩を進める事が出来ました。がん診療が進歩する中で、患者さんが社会的生活を維持しながら治療を受けられるよう、病院の体制をさらに整備しました。

通院加療がんセンターの開所を一つのマイルストーンとして、拠点病院である当院のがん診療が、より総合的で、より質の高いものになり、県民に役立てる病院になることを目指して参ります。